

## 目 次

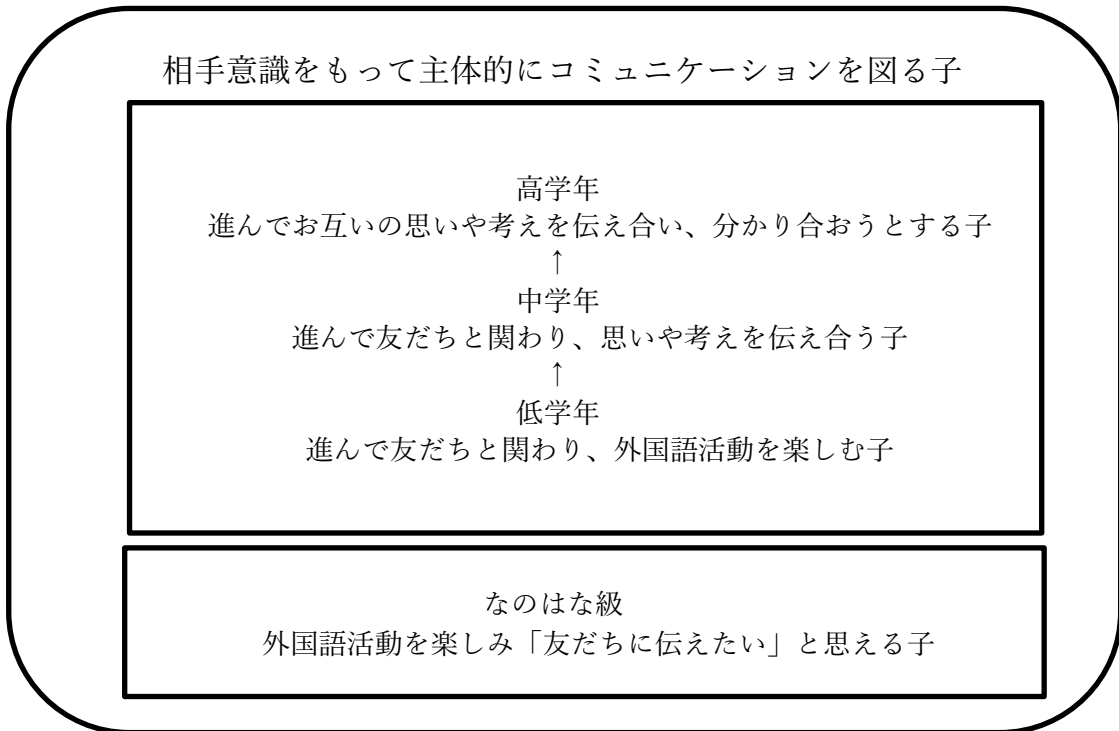
- 1 はじめに
- 2 研究の概要
- 3 研究部会の取り組み
  - ① カリキュラム部会
  - ② 教材開発部会
  - ③ 校内環境部会
  - ④ 授業研だよりの発行
- 4 ALT デー
- 5 各学年の取り組み
  - 1 年生
  - 2 年生
  - 3 年生
  - 4 年生
  - 5 年生
  - 6 年生
  - なのはな級
- 6 終わりに

## 2 研究の概要

### ○研究テーマ

相手意識をもって主体的にコミュニケーションを図る児童の育成  
～授業スタイルの確立と活動の工夫を通して～

### ○目指す子どもの姿



令和5・6年度外国語活動・外国語教育の研究推進校として、本校は上記の研究テーマと目指す子どもの姿を設定して、研究をスタートさせた。子どもたちが、友達、HRT、ALTなどいろいろな人と関わりながら、英語を使って進んでコミュニケーションを図ることができるように、子ども達がやってみたいと思える場の設定や活動の工夫、有効な手立てを模索してきた。

教師は、シンプルな英語を使い、指示は短く明確にする。ネイティブのような発音でなくとも、担任教師がALTと共に楽しく英語を話している姿を見せることを大事にしてきた。学習の流れを提示し、パターン化することで、教師の説明が短くなり、子ども達の言語活動の時間を確保することができる。また、子ども達が学習の見通しをもち、安心して学習に取り組めるようにすることで、自信をもって英語を使ってコミュニケーションを図ることができるのではないかと考えた。間違いを受容できるクラスの雰囲気や児童が挑戦する機会を作り、楽しく分かる授業づくりを進めていった。

### 3 研究部会の取り組み

#### ① カリキュラム部会

##### ・指導案のひな型

令和5年度第1回の授業研究会の提案を受け、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（外国語・外国語活動）をもとにして、指導案のひな型を作成した。昨年度までの問いづくりの研究の指導案も継承し、研究テーマと目指す子供の姿に迫るための手立てや授業の視点を盛り込むこととした。

##### ・低学年のカリキュラム・enjoyリスト

昨年度までは、外部講師の協力を得ながら、担任や学年が手探りで学習内容を検討していた。そこで、今年度はカリキュラム部会のなかで、1年と2年の学習のつながりや中学年への素地づくり、他教科と関連を踏まえて、一から学習内容を見直した。また、教え込むのではなく自然に楽しく英語に触れるための授業づくりを模索し、低学年のenjoyリストを作成することができた。（P\*\*参照）

##### ・特別支援級のカリキュラム

特別支援級の担任が中心になり、各児童の発達段階や課題を踏まえて、特別支援級での外国語活動のカリキュラムを作成した。

##### ・新作のLENGeCのカード

新作小学校のオリジナルキャラクターの麦っ子くんの挿絵を使って、LENGeCのカードを作成した。「Listen carefully」、「Eye contact」、「Nice smile」、「Gesture」、「Clear voice」の5つのカードを使い、各学年の学習状況に応じて児童への意識付けを行った。

#### ★授業スタイルの確立に向けて

##### ・学習の初めと終わりの挨拶

外国語学習に向かう雰囲気を作り、意欲を高めるために、学習の始まりと終わりの挨拶を考えた。ALTと掛け合いをすることで、元気に楽しく挨拶をすることができた。まだしっかりと全クラスに浸透していないので、来年度も引き続き行っていく。

##### ・学習の見通し

単元全体やその時間の学習内容や活動の見通しが持てるように、黒板に学習の流れや目標を掲示するようにした。低学年や特別支援級では絵カードを用いることとした。中学年はLet's tryの教材をテレビに映して代用したり、学習の流れを板書したりした。高学年は、教科書の表示と同じ色や字体のカードを作って掲示した。

## ② 教材開発（GIGA 含む）部会

- ・ピクチャーカード

今まではどのカードがあるか共有できていなかったため、今年作成したポータルサイトに項目を記載した。来年度教科書が変わるタイミングで、指導内容に沿って整理し、詳しく載せる。

## ポータルサイトについて

教材開発部会では研究を進めるにあたって GIGA 端末を活用して「新作小校内研ポータルサイト」を作り、各学年の指導案や学校内のフラッシュカードのリスト、授業で使える動画のリンクなどをサイトに載せている。研究の資料や授業で使える教材のデータベースとして活用している。

## ③ 校内環境部会

- ・英語ボランティアの活動

英語ボランティアは、本校在籍児童の保護者を中心に構成されており、月1回程度、中休みの時間に、ゲームややり取りを通じて英語に親しむことができるような取り組みを行っている。楽しみながら英語に触れる機会をもつことで、興味関心を引き出す一助を担っている。



- ・イングリッシュスペースの設置

校内の一角にイングリッシュスペースを設けた。1年目の今年度は、英語ボランティアの方々の協力も得ながら、自然と英語を学べるように季節に合った掲示物を展示した。今後は児童の作品を掲示したり、外国語の絵本を紹介したりと、さらに広がっていきたいと考えている。



## 「ALT デー」について

8月31日に「ALT デー」を行った。この日は総勢 18 名もの ALT が新作小学校に来校し、子どもたちは4時間授業のすべてが「外国語活動」という特別な一日を過ごした。各クラスに5人のALTが入れ替わりで訪れ、自分の出身国の文化や言語を紹介したり、クイズやゲームをしたりと、毎時間、個性あふれる活動を行った。

### 【子どもたちの振り返りより】



- ・楽しかった。外国の人ともっとたくさんおしゃべりしたい(6年)
- ・いろいろな国から来た先生がいっぱいで楽しかった。(2年)
- ・違う国の知らないスポーツや食べ物などを教えてもらった。(4年)
- ・初めて聞いた英語がたくさんあって楽しかった。(4年)
- ・外国の人たちとたくさん触れ合えてよかった。(4年)
- ・今回の活動で英語にちょっとだけ自信がついた。(6年)

- ・ALTたちの英語を理解できるようにがんばった。(6年)
- ・おもしろかったから、またやりたい。(1年)
- ・英語をおぼえられた。(1年)
- ・いろいろな外国があることを知った。(2年)
- ・また来てくれるとうれしい。(3年)
- ・知らないことが知られて楽しかった。(2年)
- ・これからもALTデーを3か月に一回くらいやってほしい。(5年)
- ・日本と外国の違いをたくさん知ることができておもしろかった。(6年)



- ・外国と日本の文化の違いが不思議だった。(5年)
- ・勉強になった。(5年)
- ・フィリピンに焼きそばがないことにびっくりした(1年)
- ・英語のゲームができて楽しかった(3年)
- ・日本のアニメが、アメリカでは違うキャラになっていたのが面白かった。(3年)

子どもたちは様々な国から来たALTたちとコミュニケーションを楽しんだ。また、外国の文化に触れて、日本との違いに驚くなど、たくさんの刺激を受けたようだ。「もっと外国について知りたい!」「もっと英語で話してみたい!」という意欲にもつながる貴重な経験になったのではないかな。

